

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	12-334	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Hybrid Cognitive Behavioral Therapy Versus Relaxation Training for Co-Occurring Anxiety and Alcohol Disorder:A Randomized Clinical Trial.A Randomized Clinical Trial. 不安とアルコール使用障害の共存に対する複合した認知行動療法とリラクゼーショントレーニングの比較検討. ランダム化臨床試験		
執筆者		
Kushner MG, Maurer EW, Thuras P, Donahue C, Frye B, Menary KR, Hobbs J, Haeny AM, Van Demark J.		
掲載誌		
J Consult Clin Psychol. 2013 Jun;81(3):429-42. doi: 10.1037/a0031301. Epub 2012 Dec 31.		
キーワード		
要 旨		
目的： アルコール摂取障害 (AUD) の治療は、不安障害を共存する人でははるかに効果的でない。驚くべきことに、不安に対する独立した治療を AUD の治療に加えることは、これらの患者の劣悪な飲酒状況の結果を実質的には改善しない。 これは、独立した治療からアルコール摂取の不安症状の動的相互作用への注意と飲酒動機付けが不足していることを反映している可能性がある。この視点から、我々は、不安症状を減らして、不安の経験と飲む動機付けの関連を弱めるような認知行動療法 (CBT) プログラムを組み立てた。		
方法： 社会恐怖症のある、全般性不安障害またはパニック障害のために、地域での AUD 治療を受けている 344 例の患者に CBT または積極的比較治療である Progressive Muscle Relaxation Training (PMRT) を無作為に割付けた。評価は、治療直後と治療 4 ヶ月後、に行った (n = 247)。		
結果 予測されたように、CBT グループは PMRT グループより有意に良好な飲酒状況の結果を治療後 4 ヶ月で示した。両群の治療は不安の減少に相当な程度を示したが、治療直後には両群間に有意な差はなく、治療 4 ヶ月後では CBT グループがわずかに優位性を示した。		
結論： これらの所見は、不安の経験と飲む動機付けの間の関係を弱めることを目的とする介入が単独で不安を減少させるだけでなく、治療困難な患者の飲酒状況を改善することに重要な役割を果たすことを示唆する。		